

北久米小だより3月

平成23年3月23日
松山市立北久米小学校

松山市福音寺町9番地
(089) 976-8431

クラブ発表会

クラブ活動担当 井原 尚哉

異なる視点の大切さ

教頭 明神 久武

今年の冬は、記録的な寒さでしたが、それでもちゃんと時期が来れば春になるようで、菜の花が咲いて、桜の蕾も大きくなり、今年度も終わろうとしています。節目の時期を迎えました。



北久米小学校においても3学期は、書き初め大会・持久走大会・遠足・6年生を送る会などたくさんの行事がありました。子どもたちは、その行事一つ一つに違った笑顔を見せていました。特に、間もなく卒業を迎える6年生は、卒業プロジェクトとして在校生とのかかわりを大切にし、積極的に交流する姿に、6年間の大きな成長を見ることができました。また、愛着のある校舎を清掃し、思いを深めている様子にしみじみとしたものを感じるこのごろです。

さて、「3D」の技術のように物事を立体的にとらえていくには、異なる視点が必要になります。昨年のNHKの大河ドラマの影響で坂本龍馬が大変なブームになりました。高知県の桂浜にあるじつと太平洋を見つめている銅像は有名で、私も、龍馬はこの大波を見て育ったので、こせこせした性格にならず、大きな仕事のできたのだと思っていたのです。もちろん、そういう要素もあるでしょう。しかし、龍馬が土佐藩の郷土（武士の階級でも最下位に位置する身分）に生まれながら、父の実家はとても裕福な商家であったことを後に知り納得しました。武士と商人の両方の視点を獲得して育ったことが、龍馬の思考の柔軟さや度量の大きさにつながった大きな要素でした。今の時代も同じかもしれません。閉鎖感のある時代に本質をつき動かすためには、多元的な視点をもった人物が必要なのでしょう。私たちも決して人任せにすることなく、角度を変えて考えればどうであるかを常に問いたいものです。



子育ても同様に、家庭、学校、地域の異なる視点の一つにして、子どもたちの実体を見つめ育てていかなければなりません。家庭で見せる顔、学校で見せる顔、地域で見せる顔、それぞれ違ってあたりまえ、全部ひっくるめて立体の子どもたちが浮き上がってきます。子どもたちの本質を理解し、大きく成長させるためには異なる視点を取り入れて、「3D」のめがねにしましょう。この3月、日本を揺るがす大地震が起きました。これからの時代は、急速に変わっていくかもしれません。子どもたちにも、しっかりと異なる視点を獲得して、物事の実体を的確にとらえる力強い人に育ててほしいと思います。

最後になりましたが、今年度の教育活動に当たりまして、保護者の皆様、地域の皆様、関係諸団体の皆様方に、多大なご支援・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。心より感謝を申し上げます。



平成23年2月17日(木)にクラブ発表会が体育館で行われました。現在クラブ活動は、14クラブで実施しています。3年生から6年生までの子どもたちが参加し、4年生から6年生は、日頃のクラブ活動の成果をビデオ映像や劇などを活用して発表しました。3年生においては、今回のクラブ発表を通し、来年度自分が入るクラブを選ぶ参考になりました。



わたしは、料理クラブに入りたいです。わけは、料理を作るのが好きだからです。
3年 A・N

クラブ発表会を見て、いろいろなクラブがあることが分かりました。みんな楽しんでいるなと思いました。
3年 M・M

科学じっけんクラブの発表を見て、スライムの作り方を知りました。ぼくも、いろいろな実験をやってみたいなと思いました。
3年 K・M

わたしは、ダンスクラブに入りたいと思いました。おどることが好きだからです。上手におどれたらカッコいいなと思います。3年 S・M

ぼくが心に残ったクラブは、科学じっけんクラブです。映像で、実験が楽しそうだったので、入りたいなと思いました。
3年 K・U

私が心に残ったクラブは、バドミントンクラブです。おもしろい劇をしてくれたので、入りたいなと思いました。
3年 Y・S